

平成11年度

調査名：大阪RSPデータベースの構築

目的：科学技術コーディネータが大学等の研究成果を個別調査するに当たって、研究者の研究活動の履歴、研究分野、発表論文などを予め知っておくことが重要である。予備調査によるとインターネットなどでデータ収集が可能な大阪府下の大学の理工医農系研究者の総数は約4000名を超えるので、電子的なデータベースの構築が望まれる。また、面談などによって得られたデータを整理して必要に応じて取り出せるようにするためには、パソコン上で入力可能なデータベースであることも必須である。

調査対象：大阪大学、大阪府立大学、大阪市立大学、関西大学に所属する理学系、工学系、農学系、医学系の研究者

調査方法：ReaD、Nacsis - Dirr、阪大研究者総覧から抽出した。
データベースのフィールドは、ReaDを基本とし、Nacsisのフィールド「現在の研究課題」を追加した。

調査の成果：大阪府下の約3,300件の研究者基礎データを整備した。

予算額：3,500千円

平成12年度

調査名：大阪RSPデータベースの構築

目的：科学技術コーディネータが大学等の研究成果を個別調査するに当たって、研究者の研究活動の履歴、研究分野、発表論文などを予め知っておくことが重要である。予備調査によるとインターネットなどでデータ収集が可能な大阪府下の大学の理工医農系研究者の総数は約4000名を超えるので、電子的なデータベースの構築が望まれる。11年度は、大阪大学を始めとする国公立大学の研究者を対象にデータベース構築を実施した。12年度は近畿大学を始めとする私立大学と大阪府立産業技術総合研究所などの公設試験所に在籍の研究者に対してデータベース化に取り組み大阪府下全域における主要な研究者データベースの完成を目指した。

調査対象：大阪工業大学、近畿大学、摂南大学、大阪産業大学、大阪電気通信大学の私立大学と大阪工業技術研究所、大阪府立産業技術総合研究所、大阪市立工業研究所に所属する理学系、工学系、農学系、医学系の研究者

調査方法：Read、Nacsis-Dirr、から抽出する。Read :663件 Nacsis:747件
データフィールドは、ReaDを基本とし、Nacsisのフィールド、「現在の研究課題」を追加した。

調査の成果：大阪府下の総計約5,600件の研究者基礎データを整備した。

予算額：1,617千円

平成13年度

調査名：企業ニーズ・データベースの構築

目的：平成11・12年度にかけて実施した大阪RSPデータベース=DOORはシーズサイドのデータベースである。大学等の研究成果の技術移転を円滑に進めるためには、もう片方の企業サイドのニーズ情報がコーディネート活動を行なう上で不可欠である。このため平成13年度から関西の中堅中小企業についてデータベース化するための調査を実施した。

調査対象：関西圏に研究開発基盤を置く企業、特に研究開発型中堅中小企業
1,200～1,300社

調査方法：(財)大阪科学技術センター賛助会員企業、(財)大阪産業振興機構支援先企業等の既存のデータベースから、コーディネート活動に必要な情報を取捨選択し、シーズ情報とのマッチングに最適な検索システムを構築するための検討を行った。この間にコーディネート活動の中から得られた企業ニーズ情報については、上記のフォーマットができ次第、追加入力できるよう情報を整えた。

調査の成果：関西圏に研究開発基盤を置く企業約1200社の企業データベースを構築した。

予算額：1,981千円

平成13年度

調査名：ナノテクノロジーに関する技術開発動向調査

目的：あらゆる産業分野のキーテクノロジーであるナノテクノロジーに関して、先端的・基礎的な技術開発および新産業創出の芽となるべき技術開発動向の情報収集を行い、コーディネート活動を推進する基礎資料とする。

調査対象：ナノテクノロジー分野に関する単行本やレビュー文献を対象とした。学術文献の情報は主としてJICSTファイルから収集した。

本調査では個別の大学や企業の情報を中心に調査した。

調査方法：総合科学技術会議 重点分野推進戦略専門調査会 ナノテクノロジー・材料プロジェクトが作成している「ナノテクノロジー・材料分野技術マップ」をもとに、ナノテクノロジー分野に関する単行本やレビュー文献などから収集した情報を盛り込み、技術マップを作成した。

調査の成果：ナノテクノロジーに関する技術マップ

予算額：2,100千円

平成14年度

調査名：大阪府周辺地域優良企業データベースの整備

目的：大阪府周辺地域企業の技術シーズのデータベース化を行い、地域結集型共同研究事業、RSP成果育成試験および大学等の研究成果の事業化が可能な企業の探索を図る。

調査方法：既存のデータベース化されている企業1200社に加え、大阪科学技術センター賛助会員、近畿の優良中小企業にアンケートを送付し最新のデータを収集した。アンケート項目は会社の概要（会社名、支店名・支社名等、代表者役職・氏名、所在地、連絡先、設立年月日、資本金、従業員数、売上高、事業内容）と研究開発の組織と概要（研究開発部門所在地、連絡先、責任者役職・氏名、特徴ある技術、研究開発費、知的所有権保有数、最近の特許出願数、公的資金の導入事例、産学官連携事例、技術の将来展望）である。

調査の成果：最新の企業情報データベースが整備された。

予算額：3,038千円(13年度補正予算)

調査実績（RSP以外）

調査研究報告書一覧

11年度

報告書名：UHQ透明導電膜形成に関する研究開発（第3年度）成果報告書

内容：・マルチビームUHQ薄膜形成装置の開発
・UHQ透明導電膜の作製技術
・UHQ透明導電膜の評価

報告書名：リサイクルに適した機能性薄膜の新規製造法と着色ガラスへの応用に関する研究開発（第3年度）成果報告書

内容：・機能性薄膜の新規製造法の研究開発
・機能性薄膜の着色ガラスへの応用に関する研究開発

報告書名：セラミックベアリング用ナノ制御材料の研究開発（第3年度）成果報告書

内容：・ナノ構造制御セラミック原料粉末合成技術の研究開発
・球体セラミックスのニアネット成形技術の研究開発
・超平滑表面の高速加工技術の研究開発
・セラミック軸受の疲労特性評価
・ナノ制御材料の解析と評価

報告書名：高機能バイオリアクターによるバイオ燃料生産に関する研究開発（第2年度）成果報告書

内容：・高活性リパーゼ生産及びエタノール生産酵母の創製
・インテリジェントバイオリアクターによるバイオ燃料生産
・ファジイ制御による最適制御

- ・バイオ燃料生産用酵素の安定化の解析

報告書名：オングストロームで制御した高度情報化システム用機能性金属ミラーの開発成果報告書

- 内 容：・大面積基板に均一に成膜出来る成膜装置の開発
- ・成膜条件と膜質ならびに防曇特性
 - ・100 以内で数層積層した金属半透過膜の成膜と透過・反射特性
 - ・密着性工場のための表面処理の検討
 - ・真空アーク蒸着法の実用化への基礎技術の確立

報告書名：プラズマ処理を用いた水分呼吸性快適織編物の開発成果報告書

- 内 容：・水分呼吸性傾斜機能織編物開発の現状
- ・低温プラズマの利用について
 - ・プラズマ・グラフト重合プロセス装置の開発
 - ・試料の準備と選定
 - ・水分呼吸性傾斜機能化処理技術の確立
 - ・水分呼吸性傾斜機能織編物の評価
 - ・水分呼吸性快適繊維製品の物理的特性評価

報告書名：高機能化ゼオライトを用いた有害物質除去技術の開発成果報告書

- 内 容：・高機能化ゼオライトの開発
- ・吸・脱着評価運転条件の確立
 - ・切替式除去・回収装置の設計

報告書名：低ビットレートマルチメディア通信系における画像音声符号・複合化技術の研究開発成果報告書

- 内 容：・H.263 コーデック LSI の開発
- ・G.723.1 コーデックのソフト開発
 - ・携帯情報機器用のリファレンスボードの開発
 - ・MPEG-4 コーデック LSI の実現への指針提案

報告書名：CTR (Continuous Thermit Reaction) System によるアルミニウムドロストめっきスラッジからのエネルギーレス、レアメタル回生プロセスとそのスラグの再資源化成果報告書

- 内 容：・粉体物性の理論的解析に基づく前処理条件の確立
- ・効率的有用金属の回収方法の確立
 - ・残留スラグの利用技術の確立
 - ・テルミット反応連続利用システムの設計
 - ・プラント設計とエンジニアリングの確立

報告書名：ウェルフェアテクノシステム研究開発（大阪）成果報告書

- 内 容：・高齢者の障害に対応した都市型居住空間の改善に関する技術開発研究
- ・総合的自律生活プログラム支援システムの開発
 - ・高齢者監視システムおよび通報システムの研究開発

報告書名：住宅産業における CALS / EDI に関する調査報告書

- 内 容：・住宅の部品、建材、住設等の規格化、標準化に関する現状と課題抽出
- ・住宅産業の取引情報の電子化に関する現状の調査
 - ・住宅産業における電子データ変換のフィージビリティ調査
 - ・住宅産業における CALS / EDI のあり方の提言

報告書名：スキルレス金型加工技術研究会成果報告書

- 内 容：・スキルレス金型加工に求められる次世代 NC 加工技術
- ・スキルレス化に向けた積層光造形技術の基礎的研究
 - ・液晶光造形法の開発

報告書名：近畿地域戦略的電子情報技術開発指針策定報告書

- 内 容：・電子情報技術分野の動向と課題
- ・近畿地域の戦略的電子情報技術開発策定と推進体制

- ・調査研究会報告概要
- ・今後の取り組み

報告書名：平成 11 年度長期エネルギー技術戦略等に関する調査「産業技術戦略策定基盤調査（分野別技術戦略 電子情報技術分野 [コンピュータ関連分野の内、ヒューマンプロセスウェア分野] ）」

- 内 容：・調査研究の概要
- ・ヒューマンプロセスウェア産業における産業競争力と技術の現状
 - ・HPW 技術分野において技術革新を阻害している問題点
 - ・今後の展望と戦略

報告書名：現場の課題解決はこうする（中堅・中小企業の業務改善事例）

- 内 容：第 1 部 A T A C の紹介
第 2 部 改革・改善事例
第 3 部 A T A C の主張

報告書名：研究成果活用プラザの設置に関する地域の実情調査報告書

- 内 容：・大阪府域のポテンシャル
- ・ハイテクプラザの整備方向
 - ・テクノステージ和泉におけるハイテクプラザの活用

報告書名：外部機関との連携による府立産業技術総合研究所の技術支援業務の拡充に関する調査報告書

- 内 容：府立産業技術総合研究所の技術相談技術支援の現状と課題
- ・中核支援機関における技術相談・技術支援の取り組みの現状と府立産業技術総合研究所への取り組み
 - ・府立産業技術総合研究所技術支援センターにおけるコーディネート機能

報告書名：台湾リサイクル技術調査団報告書

- 内 容：・台湾における廃棄物処理行政のヒアリング
- ・廃家電プラント施設とゴミ焼却施設の視察調査
 - ・学術面で指導的地位にある台湾大学との技術交流

報告書名：ホワイトカラーの知的生産性に関する調査報告書

- 内 容：・3年間（平成 9 年 5 月～12 年 3 月）の活動状況・成果
- ・各委員の見解

報告書名：高度ネットワーク社会のセキュリティ・防災システム技術研究会報告書

- 内 容：・3年間（平成 9 年～11 年 3 月）の講演内容

報告書名：光科学研究に関する利用ニーズ調査 報告書

- 内 容：・同研究所の研究施設を用いた共同利用、共同研究のニーズ調査、研究テーマの抽出、研究体制施設運営体制に関する要望等

報告書名：公共施設における新エネルギーシステム導入研究報告書

- 内 容：関西地域における関連施策の現状と実態把握
- ・新エネルギーシステム導入のコンセプトと導入メニュー
 - ・供給処理施設への新エネルギーシステム導入類似事例の動向
 - ・単独モデル施設のスタディ（浄水施設系モデル）
 - ・供給処理施設における新事業化手法の動向

報告書名：夢洲まちづくりの提案～明日の循環型・環境共生型実験都市の実現をめざして～

- 内 容：・国際規格環境マネジメントシステム
- ・水資源のトータル循環利用システム
 - ・未来型のエネルギーシステムのショーケース
 - ・環境共生型交通システム
 - ・環境監視・環境共生情報システム等の具体的提案と定量的検討

報告書名：平成 11 年度研究助成事業リチウム二次電池要素技術に関する研究報告書
電解液の最適化と安全性

内 容：第 篇 平成 11 年度研究助成事業報告
「リチウムイオン電池構成材料の熱安定性に関する研究」
「リチウム二次電池の電極過程に及ぼす有機電解液組成の影響 金属リチウム負極の特性改善の試み」
第 篇 調査報告
E V S - 16 (第 16 回国際電気自動車シンポジウム) 参加報告

報告書名：生活者、自治体、産業界のパートナーシップ型地域情報化モデルの地域情報化モデルの地域適用に関する調査報告書

内 容：・地域情報化モデルの適用地区や適用条件
・構築システム

報告書名：関西への対日投資を促進するための産業・技術情報の整備のあり方に関する調査研究

内 容：関西における海外の産業・技術交流の現状と産業・技術情報の整備状況を踏まえ、関西の投資環境の魅力をアピールすることをねらいとした産業技術情報の整備方策の調査。

報告書名：彩都ライフサイエンスパーク具体化推進アクションプログラム立案調査

内 容：・ライフサイエンスパークにおけるコア機能
・ライフサイエンスパークにおける戦略的研究領域・テーマ
・彩都コア機構の事業立ち上げ初期段階の取り組み

報告書名：文化学術研究施設誘致促進方策具体化調査報告書

内 容：・研究所及び工場立地促進事例ヒアリング調査
・関西文化学術研究都市における取り組み方向

報告書名：燃料電池会 - 委員研究取り組み概要紹介 -

内 容：参画の委員（大学、研究機関、産業界）が取り組んでいる燃料電池に関する研究状況（和文版・英文版）

報告書名：アドバンスト・バッテリー技術研究会 - 会員の研究取り組み概要紹介 -

内 容：参画の委員（大学、研究機関、産業界）が取り組んでいる新型二次電池に関する研究状況（和文版・英文版）

12年度

報告書名：バイオガス研究グループ活動報告書（4）

内 容：・組織、名簿
・活動概要 / 研究会活動概要

報告書名：2000 Fuel Cell Seminar 調査報告

内 容：発表内容一覧 / 各セッションの概要

報告書名：タイ・バイオマス熱利用事情調査団報告書

内 容：・RATCHASIMA SUGAR
・INDORAMA CHEMICALS
・THAIKRAFT PAPER

報告書名：平成 12 年度ウェルフェアテクノシステム研究開発(大阪)成果報告書

内 容：・総合自立支援
・高齢者の障害に対応した都市型居住空間の改造に関する技術開発研究

・高齢者監視システム及び通報システムの研究開発

報告書名：電池用新規複合ポリマ - 系電解質の研究開発成果報告書

- 内 容：・新規複合ポリマ - 系電解質の創製と最適化研究開発
- ・複合ポリマ - 系電解質電池の実用化研究開発
 - ・複合ポリマ - 系電解質の安全性に関する研究開発
 - ・新規電解質の合成と電解質・電極界面の触媒活性に関する研究開発
 - ・ポリマ - ・オリゴマ - 複合電解質に関する研究開発

報告書名：公共施設における新エネルギーシステム導入研究報告書

- 内 容：関西地域における浄水場、下水処理場等の供給処理施設を対象にした自立型で地域共生型の新エネルギーシステムに関する調査研究

報告書名：環境適合型石油代替燃料製造技術先導研究成果報告書

- 内 容：液体燃料（メタノール・ジメチルエーテル）の製造のための微生物を用いた革新的合成技術の先導研究

報告書名：小型燃料電池の先導的導入に関する調査研究～家庭用を中心として～

- 内 容：・PEFCを中心とする技術及び施策の動向
- ・家庭用（戸建て）に先導的に導入促進を図るための課題・方策

報告書名：リチウム二次電池要素技術に関する研究報告書-電極の最適化と電池特性

- 内 容：・ $Mg_{0.5}Ti_2(PO_4)_3$ への電気化学的マグネシウム挿入
- ・スピンコater法によるマグネシウム系水素吸蔵合金の作製とキャラクターゼーション
 - ・第10回リチウム電池国際会議報告 / EVS-17 調査報告

報告書名：デジタルシティ構想 - IT産業の集積促進手法 -

- 内 容：・大阪におけるIT産業集積
- ・地域IT企業の実態とニーズ
 - ・デジタルシティ構想の提案

報告書名：高次の車両操安性を実現するBS(MABS)センサシステムの小型モジュール化についての総合研究開発成果報告書

- 内 容：・小型化したABS用新規センサシステム(MASS)の開発
- ・新規センサシステム用パッケージング技術、接合材料の開発
 - ・ABS用新規センサシステム(MASS)の最適化の開発
 - ・センサ、モジュール及びシステムの耐環境評価技術の確立
 - ・車両搭載による検証試験

報告書名：ナノピンセット及びナノマニピュレータに関する研究開発成果報告書

- 内 容：・ナノファクトリーの構築
- ・ナノチューブカートリッジの開発
 - ・ナノファクトリーにおけるプロセス技術の開発
 - ・ナノマニピュレータシステムの開発

報告書名：光科学研究に関する利用ニーズ調査 報告書

内 容：・関西地域における光科学に関する共同研究のあり方について、計算機利用、産業応用、基礎科学面で検討
・6つの事例提言

報告書名：高機能バイオリアクターに関するバイオ燃料生産に関する研究開発成果報告書

内 容：・高性能リパーゼ生産及びエタノール生産酵母の創製
・インテリジェントバイオリアクターによるバイオ燃料生産
・ファジイ制御による最適制御
・バイオ燃料生産用酵素の安定化技術の開発

報告書名：遺伝子機能の大量迅速同定に関する研究開発成果報告書

内 容：・HVJ膜ベクターによる遺伝子導入法の開発
・キットの市場調査、販売流通における保冷施設の調査

報告書名：高分子アクチュエータによる人工筋肉の開発成果報告書

内 容：・イオン導電性高分子アクチュエータの発生力の向上
・電子導電性高分子アクチュエータによる人工筋肉の開発
・高分子アクチュエータの技術応用の可能性調査について

報告書名：日本におけるリサイクル

内 容：・日本の環境対策概観
・日本におけるリサイクルの概観
・リサイクル技術

報告書名：経済性を含めた廃棄物処理技術の導入最適化設計について

内 容：・ダイオキシン類の評価およびELFの見直し
・LCAと経済性の関連についての検討

報告書名：地球環境技術推進懇談会 第7年度活動報告書

内 容：・収集・輸送および最終処分場の評価
・4回の研究会で話題提供頂いた講演資料集

報告書名：クラスターイオンビームプロセッサ成果報告書

内 容：・大電流クラスターイオンビーム発生・照射技術の開発
・クラスターイオンビームによる材料プロセス技術の開発
・クラスターイオンビームプロセスに関する総合調査研究

報告書名：21世紀大阪湾ベイエリア開発整備推進のために必要な社会基盤と戦略プロジェクト化

内 容：・大阪湾臨海地域の現状と課題
・大阪湾臨海地域の開発基本方針
・戦略プロジェクトの提案
・実現の為に戦略プロジェクトの提案

報告書名：マイクロフォトに関する調査研究報告書

- 内 容：・マイクロフォトニクスのための機能性材料
・パルスレーザーを用いたマイクロ加工技術
・光ファイバ型デバイスとその応用
・回折光学型および屈折光光学型光デバイスとその応用
・マイクロフォトニクスを支える新しい成膜技術

報告書名：平成12年度ヒトとモノの高度コミュニケーション技術に関する調査研究報告書

- 内 容：・機械(モノ)による視覚・聴覚・触覚検知技術に関する調査
・機械(モノ)による感覚・感情(心的状態)検知技術に関する調査
・機械(モノ)によるAIに関する技術調査
・ヒトとモノとの望ましいコミュニケーションのあり方

報告書名：府内中小企業等における大学の先端技術の活用に関する企業意識調査報告書

- 内 容：・調査目的
・調査方法
・調査結果
・回答結果

報告書名：大阪府健康科学センター(仮称)における産業界の参画のあり方に関する調査報告書

- 内 容：・調査の主旨
・企画
・団体に対する説明会の開催
・企業アンケートの実施
・調査結果のまとめ

平成13年度

報告書名：関西におけるナノテクノロジーに関する技術開発動向調査報告書

- 内 容：・関西における重点分野とその研究取組課題
・関西産業界の特徴 - 関西企業140社アンケート調査結果

報告書名：計算・先端情報共同利用センターに関するニーズ調査

- 内 容：・光量子科学・プラズマ科学分科会報告
・原子力・環境・流体科学分科会報告
・数理・情報科学分科会報告
・物性・物質分科会報告
・基礎科学分科会報告
・まとめ

調査書名：クラスターイオンビームプロセステクノロジー成果報告書

- 内 容・クラスターイオンビームによる材料プロセス技術の開発
・クラスターイオンビームプロセスに関する総合調査研究

調査書名：HJVエンベロープベクターシステムの先端医療用材料化成果報告書

内 容：・高品位HVJエンベロープベクターの大量生産技術の開発
・生産プロセスの確立と実証評価
・総合調査研究

調査書名：高分子アクチュエーターによる人工筋肉の開発成果報告書

内 容：・イオン導電性高分子アクチュエータの発生力の向上
・電子導電性高分子アクチュエータの研究
・DDSのための外部刺激応答ハイドロゲルの研究
・総合調査研究

調査書名：プロテオーム解析用マイクロHPLCチップの開発成果報告書

内 容：・細胞表面ディスプレイを活用した新しい機能タンパク質変換系と活性測定法の開発
・モノリスキマイクロHPLCカラムの開発
・プロテオーム解析用システムの開発
・植物細胞における有用遺伝子機能のハイスループット探索系の開発
・並列ユニットの開発
・検出部開発

調査書名：UASBと高温可溶化の組合せシステムでの低エネルギー排水処理成果報告書

内 容：・実証装置の開発
・汚泥減容化法開発
・脱色技術の開発
・難分解性物質分解法開発

調査書名：インバータプラズマを用いた高密度記録材料開発技術の研究報告書

内 容：・低コストガラス基板の開発
・低コスト記録層形成技術の開発
・インバータプラズマ成膜装置の開発

調査書名：細胞組織工学(ティッシュエンジニアリング)の研究開発成果報告書

・体性幹細胞・前駆細胞の分離・増殖技術の開発
・細胞組織化技術の開発

調査書名：大阪府地域結集型共同研究事業テラ光情報基盤技術開発成果報告書

内 容：・時空間テラ光情報変換・伝送システムの研究開発
・高速パターン識別光システムの研究開発
・光・電子融合情報システムの研究開発
・2次元超微細加工技術開発
・3次元微細光学素子作製技術の研究開発

調査書名：電池用新規複合ポリマ - 系電解質の研究開発成果報告書

内 容：・新規複合ポリマ - 系電解質の創製と最適化研究開発
・複合ポリマ - 系電解質電池の実用化研究開発

- ・複合ポリマ - 系電解質の安全性に関する研究開発
- ・新規電解質の合成と電解質・電極界面の触媒活性に関する研究開発
- ・ポリマ - ・オリゴマ - 複合電解質に関する研究開発

調査書名：環境適合型石油代替燃料製造技術先導研究成果報告書

- 内 容：
- ・微生物の培養及び活性に関する研究
 - ・微生物の活性評価の研究
 - ・メタノールを生産する菌体リアクターの実証
 - ・DME 製造リアクターシステムの設計

調査書名：計算・先端情報共同利用センターに関するニーズ調査報告書

- 内 容：
- ・光量子科学・プラズマ科学分野
 - ・原子力・環境・流体科学分野
 - ・数理・情報科学分野
 - ・物性・物質科学分野
 - ・基礎科学分野

調査書名：公共施設新エネルギーシステム研究報告書

- 内 容：
- ・新エネルギーネットワークの考え方
 - ・新エネルギーネットワークのシステム計画
 - ・新エネルギーネットワークシステムの社会的効用評価
 - ・新エネルギーネットワークシステムの事業性評価

調査書名：デジタルシティ構想 - アクションプログラムの実証的調査研究報告書

- 内 容：
- ・デジタルシティ構想の提言によるインパクト
 - ・先進事例研究と地域IT企業の動向
 - ・DC 構想・アクションプログラムの提案

14年度

報告書名：大阪府地域結集型共同研究事業研究成果報告成果報告書

- 内 容：
- ・テラ光情報処理・伝送システム
 - ・高機能光学素子作製技術
 - ・高機能光デバイス

報告書名：都市エリア産学官連携促進事業(成果育成型)【大阪/和泉エリア】平成14年度年度報告書

- 内 容：
- ・総括
 - ・事業推進体制
 - ・年度報告概要
 - ・資金支出実績
 - ・事業メニューごとの詳細報告
 - ・データ

報告書名：クラスターイオンビームプロセステクノロジー成果報告書

内 容：・大電流クラスターイオンビーム発生・照射技術の開発
・クラスターイオンビームによる材料プロセス技術の開発
・クラスターイオンビームプロセスに関する総合調査研究

報告書名：次世代量子ビーム利用ナノ加工プロセス技術の開発事業成果報告書

内 容：・無損傷ナノ加工技術の開発
・超高速・高精度ナノ加工技術の開発

報告書名：バイオマス液化物からの生分解性ポリウレタン樹脂の創製成果報告書

内 容：・研究開発の概要
・パイロットプラントでの液化および発砲
・液化物の生分解試験
・液化物の改質発砲体の育苗・栽培培地としての評価
・全体総括

報告書名：ナノテクパワーアッププログラム(ナノテク研究・産業化推進支援方策)に関する調査報告書

内 容：・関西ナノテクノロジーの産学連携・産業化に向けての課題
・ナノテクノロジーの研究開発・産業化推進支援方策の提案

報告書名：電池用新規複合ポリマー系電解質の研究開発成果報告書

内 容：・電池用新規複合ポリマ - 系電解質の創製と最適化研究開発
・新規複合ポリマー系電解質電池の実用化研究開発
・電池用新規複合ポリマ - 系電解質の安全性に関する研究開発
・新規電解質の合成と電解質・電極界面の触媒活性に関する研究開発
・新規電解質の合成と電解質・電極界面の触媒活性に関する研究開発
・電池用新規複合ポリマ - 系電解質に関する調査

報告書名：環境適合型石油代替燃料製造技術先導研究成果報告書

内 容：・微生物の大量培養の研究
・微生物の活性評価の研究
・メタノールを生産する菌体リアクターの実証
・DME製造リアクターシステムの設計

報告書名：酵素法による医薬中間体の低負荷型生産技術の開発成果報告書

内 容：・研究開発の概要
・新規酵母細胞ディスプレイシステムの構築と医薬中間体合成
・*Rhizopus oryzae* lipase (ROL) 表層提示酵母を用いたベンジルオキソ-3-クロロ-2-プロピルコハク酸モノエステルの速度論的光学分割の研究
・医薬中間体合成用酵素を有する微生物の高密度固定化技術
・全体総括

報告書名：強力酸化分解菌群によるノンスラッジ高速排水処理システムの開発成果報告書

内 容：・強力酸化分解菌による高速有機物分解処理の研究

- ・超微細気泡による高速処理システムの研究
- ・金属膜による固液分離・遊離菌分離の研究
- ・排水処理施設でのモデル装置の開発と実地試験

報告書名：幹細胞表面マーカータイピング装置の開発成果報告書

- 内 容：
- ・研究開発の概要
 - ・細胞表面マーカー分析のための抗体アレイの作製
 - ・表面プラズモン共鳴イメージング法に関する開発研究
 - ・表面プラズモン共鳴イメージング装置に関する開発研究
 - ・表面プラズモン共鳴イメージング法による抗体アレイ - 細胞間相互利用の迅速分析 -
 - ・幹細胞表面マーカータイピング装置の有効性評価
 - ・表面プラズモン励起蛍光顕微鏡に関する開発研究
 - ・全体総括

報告書名：新規制癌作用をもつNK4遺伝子治療用ベクターの基盤技術の開発成果報告書

- 内 容：
- ・研究開発の概要
 - ・調査研究
 - ・NK4遺伝子発現用ベクターの構築
 - ・実験動物へのNK4発現用ベクター投与による生体内発現の解析と副作用・安全性評価
 - ・実験動物でのNK4遺伝子発現の制癌作用の解析
 - ・全体総括

報告書名：新規リボン型デコイ核酸の技術開発成果報告書

- 内 容：
- ・研究開発の概要
 - ・新規リボン型デコイのデザイン
 - ・リボン型デコイの製造方法の改良
 - ・新規リボン型核酸医薬の技術開発
 - ・リボン型デコイの神経細胞への応用に関する開発研究
 - ・全体総括

報告書名：ポストゲノム解析用マイクロHPLCの開発第1年度成果報告書

- 内 容：
- ・研究開発の概要
 - ・ディスプレイ法による機能タンパク質調整とメタボローム解析系の開発
 - ・ポストゲノム解析用バイオ試料調整システムの開発
 - ・バイオ試料のデータバンク作製
 - ・マイクロHPLC各機能要素部の開発
 - ・ハイスループット解析用分離担体の開発
 - ・各種分離モードに対応するための官能基の修飾技術
 - ・全体総括

報告書名：脳動脈瘤治療を目的とした治療機器とデバイスの開発成果報告書

- 内 容：
- ・研究開発の概要
 - ・カテーテルナビケーションシステムのカテーテル位置検知装置に用いる磁場センサに関する研究開発

- ・磁気センサによるカテーテル先端部の位置・姿勢検出システム
- ・カテーテルナビゲーションシステムのための磁場応答アクチュエータ素子に関する研究開発
- ・脳動脈瘤コイル塞栓治療時に併用するステント及びステントデリバリーカテーテルに関する研究開発
- ・脳動脈瘤治療用ステントおよびステントデリバリーカテーテルの開発に関する研究開発
- ・脳動脈瘤治療用金ステントの開発（イヌモデルによる評価）
- ・全体総括

報告書名：HVJ-Eによる高効率遺伝子機能解析システムの開発成果報告書

- 内 容：
- ・研究開発の概要
 - ・HVJ-Eへの遺伝子封入効率の増強
 - ・HVJ-E作成の最小化
 - ・遺伝子封入HVJ-Eの作成と自動化
 - ・全体総括

報告書名：ゲノム発現解析チップシステムの開発成果報告書

- 内 容：
- ・移植細胞の評価に必要とされる遺伝子コンテンツの調査
 - ・間葉系幹細胞の固相系遺伝子導入のための最適化検討
 - ・固相系遺伝子導入システムの試作
 - ・幹細胞評価のためのゲノム発現解析チップの試作、評価
 - ・ゲノム発現解析装置システム的设计に向けた調査
 - ・移植細胞評価システムの市場調査

報告書名：先端科学分野におけるITBL技術普及・利用動向調査報告書

- 内 容：
- ・光量子・プラズマ・流体科学分科会報告
 - ・数理・情報科学分科会報告
 - ・物性・物質科学分科会報告
 - ・ITBL技術普及・利用のための研究コミュニティの形成の方策
 - ・まとめ

報告書名：ストリーミングでの新しいコンテンツ保護と高品質な狭帯域配信成果報告書

- 内 容：
- ・実証ノード実用設計とネット整備
 - ・コンテンツ企画、開発
 - ・リアルタイム暗号化処理機能開発
 - ・認証機能開発
 - ・コンテンツ保護実証・評価
 - ・動的解像度変換機能開発
 - ・狭帯域配信実証・評価

報告書名：UASBと高温可溶化の組合せシステムでの低エネルギー排水処理成果報告書

- 内 容：
- ・パイロットプラントの設計、建設、設置、運転に関する研究
 - ・ラボスケールでの研究開発
 - ・実用化、普及化、テーマ推進への取組み
 - ・全体総括

15年度

報告書名：都市エリア産学官連携促進事業(成果育成型)【大阪/和泉エリア】平成15年度年度報告書

- 内 容：・総括
- ・事業推進体制
 - ・年度報告概要
 - ・資金支出実績
 - ・事業メニューごとの詳細報告
 - ・データ

報告書名：クラスターイオンビームプロセステクノロジー成果報告書

- 内 容：・大電流クラスターイオンビーム発生・照射技術の開発
- ・クラスターイオンビームによる材料プロセス技術の開発
 - ・クラスターイオンビームプロセスに関する総合調査研究

報告書名：強力酸化分解菌群によるノンスラッジ高速排水処理システムの開発成果報告書

- 内 容：・研究開発の概要
- ・強力酸化分解菌による高速有機物分解処理の研究
 - ・超微細気泡による高速処理システムの研究
 - ・金属膜による個液分離・遊離菌分離の研究
 - ・排水処理施設でのモデル装置の開発と実地試験
 - ・全体総括

報告書名：UASBと高温可溶化の組合せシステムでの低エネルギー排水処理成果報告書

- 内 容：・研究開発の動向
- ・パイロットプラントの設計、製作、設置、運転に関する研究
 - ・参画機関での研究開発
 - ・事業推進への取組と処理システムの普及広報
 - ・低エネルギーの実証
 - ・実用化への取組み

報告書名：バイオマスからのポリL, D-乳酸原料の省エネ型製造技術の開発成果報告書

- 内 容：・研究開発の概要
- ・乳酸菌宿主 - ベクター系の開発と改良
 - ・乳酸菌細胞表面発現系の改良とバイオマス分解関連酵素およびリパーゼ発現
 - ・バイオマスからの乳酸エステル発現生産プロセスの開発
 - ・全体総括

報告書名：ゲノム発現解析チップシステムの開発成果報告書

- 内 容：・医薬実用細胞の評価系に必要なレポーター遺伝子コンテンツの試作
- ・医薬実用細胞評価用チップのデザインと製品試作
 - ・ゲノム発現解析チップの製品評価法の開発
 - ・ゲノム発現チップ解析モニタリングシステムの試作
 - ・実細胞を用いたゲノム発現チップ解析モニタリングシステムの評価
 - ・ゲノム発現チップ解析モニタリングシステムの改良

報告書名：バイオ医薬デザイン用の高精度生体高分子機能予測システムの開発成果報告書

内 容：・研究開発の概要

- ・デザインした生体高分子の有効性の評価
- ・s i R N Aの細胞内導入
- ・H V J - Eによる様々な遺伝子に対するs i R N Aの効果判定
- ・細胞を用いた生体高分子の活性評価
- ・基本システムの構築・改良
- ・生体高分子の機能・構造解析
- ・ベクター製造とベクターテクノロジーの提供
- ・全体総括

報告書名：大面積プラズマ技術研究会報告書

内 容：・大面積プラズマ生成

- ・本研究会での検討項目
- ・大面積プラズマ生成に関する検討経過および結果
- ・考察
- ・メートル級大面積プラズマプロセスに関するニーズと技術開発動向

報告書名：光デバイス精密加工研究会報告書

内 容：・ガスクラスタイオンによる表面加工プロセス

- ・高品位薄膜形成技術の最適化検討
- ・超低エネルギービーム発生・制御技術の検討
- ・ビーム集束化技術の検討

報告書名：新規リボン型デコイ核酸の技術開発成果報告書

内 容：・研究開発の概要

- ・新規リボン型デコイのデザイン
- ・新規リボン型デコイの製造方法の改良
- ・新規リボン型核酸医薬の技術開発
- ・リボン型デコイの神経細胞への応用に関する研究開発
- ・全体総括

報告書名：ポストゲノム解析用マイクロHPLCの開発成果報告書

内 容：・研究開発の概要

- ・ディスプレイ法による機能タンパク質調整とメタボローム解析系の最適化
- ・ポストゲノム解析用バイオ試料調整システムの確率
- ・バイオ試料のデータバンク化
- ・マイクロHPLC各機能要素部の確立とインターフェースの開発
- ・ハイスループット解析用分離担体の最適化
- ・各種分離モードに対応するための官能基修飾技術の最適化
- ・モノリスLC - M a s s分析の安定化と最適化
- ・学会参加報告
- ・全体総括

報告書名：コンビバイオによるプロテオーム創薬システムの開発成果報告書

- 内 容：・研究開発の動向
- ・リガンドスクリーニング技術の確立
 - ・One cell アッセイ用ロボットの構築
 - ・全体総括

報告書名：先端科学分野におけるITBL技術普及・利用動向調査成果報告書

- 内 容：・オープンワークショップの広報
- ・オープンワークショップ報告
 - ・調査の結果

報告書名：ナノテクノロジーが創る関西・日本

- 内 容：・関西ナノテクノロジー推進会議 - 3年間の活動と成果 -
- ・国内外におけるナノテクノロジーの技術開発・産業化動向
 - ・関西ナノテクノロジー産業化ポテンシャル
 - ・関西におけるナノテクノロジービジネスの現状と産業化支援策
 - ・ナノテクノロジー関西元気シナリオ

報告書名：バイオマス利用を核とした大阪ベイエリアにおけるリサイクル拠点整備へ向けた提言

- 内 容：・バイオマス資源の現状と課題
- ・大阪ベイエリアにおけるバイオマス・リサイクル拠点整備へ向けた提言

新技術説明会（RSP主催）

<p>平成12年度 超高温菌利用技術講演会</p> <p>目 的：廃棄物のリサイクルは地球規模の課題として取り組まねばならない人類の命であるが、中でも尿尿や家畜糞、残飯等の有機性の廃棄物は衛生上の問題や悪臭等のためその処理に悩まされているのが実状である。ひとつの解決策としてバイオの力を借りて、有機廃材をコンポスト化する技術が各地で試みられているが、難分解物質が残ったり、悪臭が消えなかったり、根本的な解決には至っていない。これを100近い超高温の中で生息しているバクテリアを利用して、分解速度を飛躍的に早めるとともに、雑菌の殺菌、悪臭の解消、さらには難分解性の化学物質の分解を可能とするコンポスト化技術が、科学技術振興機構の独創的研究成果育成事業により開発され、現在、実用化のための研究が継続されている。こうした現状を踏まえその開発の基礎となる超高温菌研究の現状と今後の利用の可能性を紹介する。</p>
<p>予 算 額：251千円</p>
<p>開催時期：平成12年7月4日（火）</p>
<p>開催場所：大阪科学技術センター 8階中ホール</p>
<p>参加者：学界7名、官界10名、産業界59名</p>
<p>次世代太陽電池講演会</p> <p>目 的：わが国の太陽電池による発電量は現在、20万キロワットを超えたが、10年後には500万キロワットの発電量（5kw発電設備を100万所帯に設置、100万キロワット火力もしくは原子力発電所5基分相当）が求められている。しかし、地球埋蔵エネルギーの消費を抑えて地球環境保全に寄与するこの構想の実現には、5kw発電設備の大幅な低価格化が可能な新しいタイプの太陽電池の開発が必要となる。最近、金属酸化物を色素増感することによる太陽電池や有機薄膜系太陽電池が、次世代太陽電池として注目され始めている。</p> <p>こうした状況を踏まえ、その次世代太陽電池の開発の基礎、現状と今後の発展性を紹介する。</p>
<p>予 算 額：350千円</p>
<p>開催時期：平成12年8月28日（月）</p>
<p>開催場所：大阪科学技術センター 8階中ホール</p>
<p>参加者：学界19名、官界14名、産業界74名</p>
<p>ナノテクノロジー講演会</p> <p>目 的：ナノテクノロジーはわが国産業界の生産技術の生命線として非常に関心が高まってきた。米国においては、既にナノテクノロジーを戦略技術分野に掲げ強化を開始していることから、ナノテクノロジーの研究はわが国の産業競争力強化において必要不可欠であると考えられる。またナノテクノロジーは、2001年度からの5ヶ年間の政府の科学技術政策の骨格となる。「新科学技術基本計画」において研究開発投資の重点分野として挙げられている。こうした現状を踏まえ産業応用へのナノテクノロジーの現状と今後の発展性を紹介する。</p>
<p>予 算 額：564千円</p>
<p>開催時期：平成13年2月9日（金）</p>
<p>開催場所：大阪科学技術センター 大ホール</p>
<p>参加者：学界23名、官界8名、産業界194名</p>

<p>RSPシーズフォーラム2002 in大阪</p> <p>目 的：RSP事業の育成研究で得られた成果のうち、企業化のためにパートナーを必要としているいくつかの課題についてその概要を発表する場を設け大学発の新事業が展開されることを目的とする。</p>
<p>予 算 額：554千円</p>
<p>開催時期：平成14年2月22日(金)</p>
<p>開催場所：大阪科学技術センター 404号室</p>
<p>参加者：学界9名、官界33名、産業界36名</p>
<p>RSPシーズフォーラム2003 in大阪</p> <p>目 的：RSP事業の育成研究で得られた成果のうち、企業化のためにパートナーを必要としているいくつかの課題についてその概要を発表する場を設け大学発の新事業が展開されることを目的とする。</p>
<p>予 算 額：606千円</p>
<p>開催時期：平成15年2月5日(水)</p>
<p>開催場所：大阪科学技術センター 401号室</p>
<p>参加者：学界5名、官界34名、産業界34名</p>
<p>講演会 ~明日の産業を切り開くナノテクノロジー最前線~</p> <p>目 的：近年特に注目著しく、多様な分野における基盤技術として期待されているナノテクノロジーについてナノフォトニクス、ナノマテリアルにおける第一線の研究者を招聘し、その研究開発への取り組み、技術開発動向、関西における取り組み課題について、それぞれの専門分野からの視点でその最新動向を紹介することにより先端科学技術の動向を参加者に知っていただき、新たな技術開発シーズを見いだしていただく。またRSP事業におけるナノテクノロジーの取り組みを紹介する。</p>
<p>予 算 額：876千円</p>
<p>開催時期：平成15年7月10日(木)</p>
<p>開催場所：大阪科学技術センター 大ホール</p>
<p>参加者：学界6名、官界69名、産業界128名</p>
<p>RSPシーズフォーラム2003秋 in大阪</p> <p>目 的：RSP事業の育成研究で得られた成果のうち、企業化のためにパートナーを必要としているいくつかの課題についてその概要を発表する場を設け大学発の新事業が展開されることを目的とする。</p>
<p>予 算 額：677千円</p>
<p>開催時期：平成15年10月29日(水)</p>
<p>開催場所：大阪科学技術センター404号室</p>
<p>参加者：学界14名、官界18名、産業界52名</p>
<p>RSP大阪成果報告会</p> <p>目 的：本事業が終了するにあたり、5年間の研究成果育成の事例を講演とポスターセッションで紹介しこれらの報告が産学官のネットワークを強め、関西地域における科学技術の振興と地域経済の活性化、生活の質の向上、知的資産の拡充にむけた活動の一助になることを目的とする。</p>
<p>予 算 額：771千円</p>
<p>開催場所：大阪科学技術センター 中・小ホール</p>
<p>参加者：学界29名、官界46名、産業界39名</p>

新技術説明会（RSP以外）

テ - マ	我が国の科学技術 - 現状と今後の政策展開 -
演題・講師	「我が国の科学技術 - 現状と今後の政策展開 -」 加藤 重治（科学技術庁 科学技術政策局 調査課長）
開催年月日	平成11年6月21日(月) ; 参加者数 93人
テ - マ	ホワイトカラーの知的生産性向上シリーズ() ビジネスの創造と知的生産性
演題・講師	「ホワイトカラー知的生産性の向上とエクセレントカンパニー」 井口不二男(株)NEC総研 ビジネス・イノベーション主任研究員) 「テレワーク：組織変革の糸口になりうるか」 W.A.スピックス(城西国際大学 助教授) 「ホワイトカラー知的生産性研究会の成果報告～ビジネスの創造と知的生産性～」 真田 英彦(大阪大学大学院 教授) 「神戸大学における産学交流事業について」 西野 種夫(神戸大学 VBL長)
開催年月日	平成11年11月29日(月) ; 参加者数：93人
テ - マ	先端技術開発シンポジウム
講師・演題	「地域における産業技術開発政策について」 入澤 博(通商産業省 工業技術院 地域技術課長) 「先端技術の開発動向について～光・量子分野～」 田中 道七(立命館大学 理工学部教授 BKCリゾソフィス室長) 「UHQ透明導電膜形成に関する研究開発」 山田 公(京都大学大学院工学研究科附属イオン工学実験施設長) 「オンゲストロームで制御した高度情報化システム用機能性金属ミラーの開発」 茶谷原 昭義(大阪工業技術研究所材料物理部量子ビーム研究室 主任研究官) 「セラミックベアリング用ナノ制御材料の研究開発」 岩佐美 喜男(大阪工業技術研究所材料物理部セラミック材料研究室長) 「低ビットレートマルチメディア通信系における画像音声符号・復号化技術の研究開発」 白川 功(大阪大学 大学院 工学研究科 情報システム工学専攻 教授) 「独立行政法人時代の産学官連携のあり方」 諏訪 基(通商産業省 工業技術院 大阪工業技術研究所長) 「海洋浮遊式総合自然エネルギー大型発電基地計画」 蛭間 武(日本クリーンエネルギー総合研究所 事務局長) 「コンピュータ制御によるPCM恒温制御分解およびマルチスメルティング技法の研究」 上原 赫(大阪府立大学 先端科学研究所教授) 「CTR(Continuous Thermit Reaction)Systemによるアルミニウムドロストめっきスラッジからのエネルギーレス、レアメタル回生プロセスとそのスラッジの再資源化」 宮南 啓(大阪府立大学 工学部 化学工学科 教授) 「高機能化ゼオライトを用いた有害物質除去技術の開発」 松尾 博((株)関西新技術研究所表面科学研究センター機能材料研究部長) 「リサイクルに適した機能性薄膜の新規製造法と着色ガラスへの応用に関する研究開発」 南 努(大阪府立大学 工学部機能物質科学科 教授) 「プラズマ処理を用いた水分呼吸性快適織編物の開発」 片岡 清一(大阪工業技術研究所 有機機能材料部高分子表面化学研究室 主任研究官) 「高機能バイオリクターによるバイオ燃料生産に関する研究開発」 福田 秀樹(神戸大学 大学院 自然科学研究科教授)
開催年月日	平成11年11月1日(月)～2日(火) ; 参加者数：200人

テ - マ	神戸大学 産学交流講演会
演題・講師	「神戸大学における産学交流事業について」 西野 種夫（神戸大学 VBL長）
開催年月日	平成12年2月15日(火) ；参加者数：22人
テ - マ	中小企業支援制度の活用に向けて
演題・講師	「中小企業基本法の改正と技術開発支援制度について」 滝谷 晶彰（近畿通商産業局 産業企画部技術課課長補佐） 「地域活性化アドバイザー支援事業を受けて」 武村 健次（関西計装エンジニアリング㈱代表取締役） 「技術改善補助金が会社をこう変えた」 小倉 義生（太陽刷子㈱代表取締役）
開催年月日	平成12年2月18日(金) ；参加人数：70人
テ - マ	技術交流会
演題・講師	「産学連携への大学の取り組み」 城野 政弘（大阪大学 大学院工学研究科機械システム工学専攻 教授） 「オフセット多関節回転ロボットの開発」 （科学技術庁航空宇宙技術研究所） 「各種粉体の高精度湿式分散制御技術の確立」 （特殊機化工業㈱） 「マイクロ波・水熱連続反応システムの構築」 （四国計測工業㈱） 「天然ガス自動車容器元弁の開発・製品化」 （㈱ムツミコーセイ） 「静電浮上非接触式LCDガラス基板搬送装置」 （㈱秋田製作所） 「委託開発制度について」 （高木千尋 科学技術振興事業団）
開催年月日	12年3月15日(水) ；参加者数：153人
テ - マ	「産業技術戦略」説明会
演題・講師	「産業技術政策今後の方向（産業技術戦略）」
開催年月日	平成12年6月9日(金) ；参加者数：166人
テ - マ	「舞洲まちづくりへの提言」 明日への循環型・環境共生実験都市の実現を目指して
演題・講師	「舞洲まちづくりへの提言」 明日への循環型・環境共生実験都市の実現を目指して」 朴 炳植（大阪大学大学院工学研究科助教授） 「舞洲まちづくりへの提言」 明日への循環型・環境共生実験都市の実現を目指して」 鈴木 胖（大阪大学名誉教授）
開催年月日	平成12年6月9日(金) ；参加者数：125人
テ - マ	バイオベンチャー
演題・講師	「バイオベンチャー企業：可能性と危険性」 レイモンドL・ロドリゲス（カリフォルニア大学 デービス校 教授）
開催年月日	12年7月25日(火) ；参加者数：93人
テ - マ	モノづくりとITの融合
演題・講師	中小企業のモノづくりとITの融合に向けた課題」 林 明夫（通商産業省中小企業庁 経営支援部 技術課長） 「製造業におけるIT化の現状と今後の方向」 長田 公平（日本経済新聞社 大阪編集局局次長兼経済部長） 「ITが変える中小企業のモノづくり」～地域一体となったIT化の推進 井上 嘉明（滋賀県工業技術総合センター所長）
開催年月日	平成12年10月25日(水) ；参加者数：149人

テマ	モノづくりとITの融合
演題・講師	「モノづくりとITに関する中小企業庁の取り組みについて」 林 明夫（通商産業省中小企業庁経営支援部技術課長） 「町工場のIT革命」 内原 康雄（㈱エヌシーネットワーク 代表取締役） 「町工場へITがやってくる！」 ～顧客開拓、技能伝承、コストダウン、人材育成～ 長坂 悦敬（大阪産業大学 経営学部助教授）
開催年月日	平成12年11月30日(木) 参加者数：86人
テーマ	「関西におけるスーパー情報ハイウェイの構築によるR&Dの活性化」 ～近畿圏基本整備計画策定を受けて～
演題・講師	「R&Dスーパー情報ハイウェイの整備と活用の方向」 大阪大学 教授 サイバーメディアセンター副センター長 下條 真司 「ITBL計画の推進」 日本原子力研究所 計算科学技術推進センター長 矢川 元基 「バイオ情報ハイウェイを活用したバイオ活性化と関西経済の再生」 大阪大学 大学院 医学系研究科 助教授 森下 竜一
開催年月日	平成12年12月17日(月) 参加者数70名
テーマ	金属革命、超高純度化で金属はどこまでわかるか、かわるか
演題・講師	「耐放射線材料としての超高純度金属」 菱沼 章道（日本原子力研究所） 「高温耐熱材料としての超高純度合金」 篠原 正朝（三菱重工業㈱長崎研究所） 「超高純度金属と表面創製」 堀野 裕治（大阪工業技術研究所） 「ここまでの超高純度金属の科学」 安彦 兼次（東北大学金属材料研究所） 「国際標準としての超高純度金属」 角山 浩三（川鉄テクノリサーチ㈱）
開催年月日	平成13年2月9日(金) 参加者数：139人
テーマ	異業種交流シンポジウム2001
演題・講師	「大阪科学技術センター「技術と市場開発研究会(MATE研究会)」成果報告」 小倉 義生（太陽刷子㈱ 代表取締役社長） 「技術と市場開発研究会20周年記念事業「ATAC」」 五百蔵 弘典（ATAC 運営委員長） 「大阪府による異業種交流活動」 塔本 博（(社)大阪府工業協会 技術顧問） 「モノづくり異業種交流」 品川 隆幸（㈱シナガワ 代表取締役）
開催年月日	平成13年2月23日(金) 参加者数：120名
テーマ	技術交流会
演題・講師	「九州大学の技術シーズについて」 中島 寛（九州大学先端科学技術共同研究センター） 「光触媒を用いるシックハウス症候群対策用空気浄化装置」 （㈱西部技研） 「電子焙り出し技術を利用した次世代型情報セキュリティ用ソフトウェアのモデル化」

	<p>(株)エーエスエー・システムズ 「干渉線投影法に基づく高度意匠形状対応型三次元CAD/CAMシステムの開発」 (コンピュータ・エンジニアリング(株)) 「超高温好気醗酵による製紙汚泥の肥料化実用技術の開発と研究」 (株)山有 「超臨界域での物質界面の挙動と攪拌エネルギーの役割の解明」 (特殊機化工業(株))</p>
開催年月日	平成13年3月2日(金) 参加者数：80名
テ - マ	モノづくりとITの融合
演題・講師	「最近の情報通信事情とその将来展望について」 水野 博之(高知工科大学 大学院 工学研究科 起業家コース長) 「ITがうちの工場をこう変えた」 霜野 武志(株)サンワ 代表取締役社長) 「ITがうちの工場をこう変えた」 穴織 英一(穴織カーボン(株)代表取締役)
開催年月日	平成13年3月8日(木) 参加者数：120人
テ - マ	「光量子科学とITの研究拠点形成」 日本原子力研究所 関西研究所の活動概要
演題・講師	「ITBL(ITBasedLaboratory)センター構想」 浅井 清(日本原子力研究所 理事) 「日本原子力研究所 関西研究所の研究概要 光量子科学研究センターの活動を中心として」 大野 英雄(日本原子力研究所 関西研究所長)
開催年月日	13年3月14日(水) 参加者数：60人
テ - マ	「光ITの今後の展開」
演題・講師	「光技術研究部門紹介」 小林 直人((独)産業技術総合研究所光技術研究部門長) 「ナノテクノロジーが拓く、光 電子機能調和材料とITデバイス」 川合 知二(大阪大学産業科学研究所教授) 「マルチメディアを用いた将来の通信」 中津 良平(株)エイ・ティ・アール知能映像通信研究所 代表取締役社長) 「インテリジェント光ネットワークへの展望」 村上 孝三(大阪大学先端科学技術共同研究センター長) 「放射光による極端紫外線リソグラフィ」 木下 博雄(姫路工業大学高度産業科学技術研究所教授) 「関西センター紹介」 平賀 隆((独)産業技術総合研究所光技術研究部門副部門長) 「サブ波長構造形成と光学素子への応用」 西井 準治((独)産業技術総合研究所) 「量子暗号通信と単一光子検出器の開発」 土田 英実((独)産業技術総合研究所) 「フェムト秒パルスレーザー技術」 鳥塚 健二((独)産業技術総合研究所) 「ヒューマンインターフェイス光デバイスのための有機半導体技術」 鎌田 俊英((独)産業技術総合研究所) 「生体光計測への期待」 守谷 哲朗((独)産業技術総合研究所マイクロエレクトロニクス研究ラボ長)
開催年月日	13年7月24日(火) 参加者数：220人
テ - マ	研究成果発表会

演題・講師	<p>「研究成果の概要」 副研究統括 一岡 芳樹（奈良工業高等専門学校長）</p> <p>「超高速時空間光情報変換・伝送システムの研究」 時空間情報変換システム研究Grリーダー 小西 毅（大阪大学 助手）</p> <p>「薄型光・電子融合情報システムの研究開発」 薄型光・電子情報システム研究Grリーダー 谷田 純（大阪大学 助教授）</p> <p>「高速パターン識別光システムの研究開発」 高速パターン識別光システム研究Grリーダー 松岡克典 （産業技術総合研究所HSS研究センター 副センター長）</p> <p>ポスターセッション</p> <p>「2次元超微細加工技術の開発」 2次元超微細加工技術研究Grリーダー 菊田久雄（大阪府立大学 講師）</p> <p>「3次元微細光学素子作製技術の開発」 3次元微細光学素子研究Grリーダー 岩田耕一（大阪府立大学 教授）</p> <p>「テラ光情報基盤技術開発における技術移転の進め方」 新技術エージェント 梶原 孝生</p>	
開催年月日	平成13年11月20日(火)	参加者：184名
テ－マ	技術交流会	
演題・講師	<p>「ロボットクライアント・サーバーシステムの開発」 高丸工業(株)</p> <p>「人工タンパク質デザインツール」 (株)富士通九州システムエンジニアリング</p> <p>「ミカン搾汁残渣を有効利用した有害無機物質の吸着・除去剤の開発」 (株)佐電工（佐賀大学）</p> <p>「砂場の殺菌・リサイクル装置」 (株)トーエー</p> <p>「超高トルク・デンタルエアタービン」 (株)モリタ製作所</p> <p>「電氣的書換可能型共振RFIDシステムの開発」 エヌアイエス(株)</p>	
開催年月日	平成14年2月1日(金)	参加者：111名
テ－マ	「モノづくりとIT融合」推進シンポジウム	
演題・講師	<p>講演</p> <p>「モノづくりとIT - 異業種交流のよもやま話とロダン21の紹介 - 」 (株)ロダン21 代表取締役社長 品川 隆幸</p> <p>パネルディスカッション</p> <p>テ－マ：「元気なモノづくり企業から学ぶ - ITの使い方 - 」 コーディネーター：甲南大学 経営学部 助教授 長坂 悦敬</p> <p>パネラー：(株)ロダン21 代表取締役社長 品川 隆幸 ナルックス(株) 代表取締役社長 北川 清一郎 不二精機(株) 経営企画グループリーダー 越瀬 明雄 大阪府立産業技術総合研究所 システム技術部 情報処理グループ主任研究員 吉野 正紀</p>	
開催年月日	平成14年3月15日(金)	参加者：96名
テ－マ	「ものづくり元気企業支援プロジェクト」記念講演会	

演題・講師	「世界に通用するものづくり企業への期待」 - ナノテクノロジー（クラスターイオンビームテクノロジー）の 実用化の取り組みを例に - 京都大学 名誉教授 山田 公	
開催年月日	平成14年6月14日(金)	参加者：207名
テ - マ	公共施設への新エネルギー導入研究シンポジウム	
演題・講師	公共施設新エネルギーシステム導入手引きについて 日本環境技研株式会社 環境計画室 チームリーダー 須田 礼二 パネルディスカッション コーディネータ 宗宮 功（京都大学名誉教授、龍谷大学理工学部物質化学科教授） パネラー 大阪大学 大学院 工学研究科 教授 藤田 正憲 大阪大学 大学院 工学研究科 教授 水野 稔 立命館大学 理工学部 教授 山田 淳 京都大学 大学院 工学研究科 教授 津野 洋 三井安田法律事務所 弁護士 野本 修 日本環境技研(株) 環境計画室チームリーダー 須田 礼二	
開催年月日	平成14年7月15日(月)	参加者137名
テ - マ	大学における産学官連携への取り組み	
演題・講師	「大阪大学における産学官連携及び重点技術分野に対する取り組み」 大阪大学 先端科学技術共同研究センター 教授・副センター長 大森 裕 「京都大学における産学官連携及び重点技術分野に対する取り組み」 京都大学 国際融合創造センター 教授・センター長 松重 和美	
開催年月日	平成14年7月22日(月)	参加者：58名
テ - マ	「生活・生命における光 - ライフフォトニクス - 」	
演題・講師	「21世紀の家庭生活 - 電力・通信」 関西電力総合研究所 所長 長谷川 泰三 「日本再生の光産業」 浜松ホトニクス(株) 代表取締役 晝馬 輝夫 「五感情報通信」 東京大学 先端科学技術研究センター 教授 廣瀬 通孝 「五感の計測とBMEコミュニケーション」 産業技術総合研究所 ライフフォトニクス研究ラボ 外池 光雄 「光と通信と情報の間」 産業技術総合研究所 グリット研究センター 工藤 知宏 「動物の眼、バクテリアの眼、機械の眼」 奈良先端科学技術大学院大学 物質創成科学研究科科長 教授 片岡 幹雄 「軟X線顕微鏡 / 硬X線顕微鏡」 産業技術総合研究所 光技術研究部門 眞島 利和、田村 繁治 「バイオ共役光受容ナノマテリアルの創生」 産業技術総合研究所 光技術研究部門 副部門長 平賀 隆	
開催年月日	平成14年10月4日(金)	参加者：157名
テ - マ	「テラ光情報基盤技術開発」研究成果報告会	

演題・講師	<p>「テラ光情報基盤技術開発」研究成果の概要 副研究統括 一岡 芳樹(奈良工業高等専門学校 校長)</p> <p>「ULTIMATE:超高速時空間光情報変換・伝送システムとその応用」 時空間情報変換システム研究グループリ-ダー 小西 毅(大阪大学 助教授)</p> <p>「The Utilization of Time in Optical Information Processing Systems」 Emeritus Prof. A.W. Lohmann (Emeritus Professor at the University of Erlangen,Germany)</p> <p>ポスターセッションとデモ機の展示</p> <p>「複合機能回折光学素子の作製と応用」 2次元超微細加工技術研究グループリ-ダー 菊田 久雄(大阪府立大学 講師)</p> <p>「Diffractive Optical Devices :Practice and Prospects」 Prof.. R. Magnusson (Professor & Head Department of Electrical and Computer Engineering University of Connecticut,USA)</p> <p>「TOMBO:薄型光・電子融合情報システムとその応用」 薄型光・電子情報システム研究グループリーダー 谷田 純(大阪大学 教授)</p> <p>「テラ光情報基盤技術開発の将来展開」 事業総括 中原 恒雄(大阪科学技術センター 副会長)</p>
開催年月日	平成14年11月28日(金) 参加者:178名
テ-マ	「産学コラボレーション・成功のノウハウ」 -最先端技術と応用事例-
演題・講師	<p>パネルディスカッション</p> <p>コーディネータ:大阪大学 産業科学研究所教授 新原 皓一</p> <p>パネラ-:大阪府立大学 大学院工学研究科 教授 東 久雄 大阪大学 微生物病研究所 教授 野島 博 (株)アオキ 代表取締役 青木 豊彦 クラスターテクノロジー(株) 代表取締役 安達 稔 大阪府立産業技術総合研究所 総括研究員 四谷 任</p>
開催年月日	平成15年2月14日(金) 参加者169名
テ-マ	再生可能エネルギーシンポジウム
演題・講師	<p>「国におけるエネルギー政策の動向 ~RPSをめぐる最近の動き~」 近畿経済産業局 資源エネルギー部 エネルギー対策課 課長 村木哲男</p> <p>「特定規模電気事業者の立場からの再生可能エネルギーについて」(仮題) (株)エネット 経営企画部長 白羽 真</p>
開催年月日	平成15年2月24日(月) 参加者:103名
テ-マ	技術交流会
演題・講師	<p>「ダイオキシン(DXN)類汚染土壌の瞬時分解・無害化処理法の開発」 (株)マイクロアクア</p> <p>「新成形技術概念による低圧作動・高機能性射出成形用金型(ULPAC型)」 (株)太洋工作所</p> <p>「金属超微粒子担持光触媒およびその製造方法」 大研化学工業(株)</p> <p>「ナノスケール表面元素分析装置のモデル化」 (株)ユニソク</p> <p>「電氣的書換可能共振RFID(スマート共振タグ)システムの開発」</p>

	<p>エヌアイエス(株) 「事業化のために必要なマーケティングとは」 (株)船井総合研究所 パネルディスカッション テ ー マ : 「中堅・中小企業における新技術の事業化への道のり」 コ ー デ ィ ナ : 大槻 眞一 阪南大学 経営情報学部 教授 パネリスト: 池田 隆果、加瀬 一彦、菊田 正道、野澤 三郎、 三原 恵二郎 (財)大阪科学技術センター主任調査員)</p>
開催年月日	平成15年3月6日(木) ; 参加者: 98名
テ ー マ	「新機能光ナノ構造デバイス開発」研究成果発表会
演題・講師	<p>「ナノ構造フォトニクス」研究開発プロジェクトの全体像 研究統括 岩田 耕一 大阪府立大学 大学院 工学研究科 教授 「新機能光ナノ構造デバイスの開発」 研究グループリーダー 菊田 久雄 大阪府立大学 大学院工学研究科 講師 「表面無反射構造作製技術の開発」 研究グループリーダー 豊田 宏 (財)大阪科学技術センター研究員) 「超高速光スペクトログラムスコープの開発」 研究グループリーダー 小西 毅 大阪大学 大学院 工学研究科 助教授 「光産業技術の動向 - 光協会の立場から - 」 石原 聰 (財)光産業技術振興協会 理事・開発部長 中島 眞人 (財)光産業技術振興協会 開発部主幹</p>
開催年月日	平成15年3月7日(金) ; 参加者: 64名
テ ー マ	先端技術セミナー
演題・講師	<p>基調講演 「ものづくりとナノテクノロジー」 大阪大学 産業科学研究所 教授 産業科学ナノテクノロジーセンター長 川合 知二 技術シーズ発表 「レンコン金属を利用した製品開発」 大阪大学 産業科学研究所 高次制御材料科学研究部門 金属材料プロセス研究分野 教授 中嶋 英雄 「産業構造の変化と第一原理によるマテリアル・デバイスデザイン」 大阪大学 産業科学研究所 量子機能科学研究部門 量子物性研究分野 教授 吉田 博 「多結晶窒化物半導体による新規デバイス」 大阪大学 産業科学研究所 量子機能科学研究部門 光・電子材料研究分野 教授 朝日 一 「高性能シリコン MOS デバイスの新規低温創製法」 大阪大学 産業科学研究所 高次制御材料科学研究部門 セラミック機能材料研究分野 教授 小林 光 「技術知識の体系化と知識共有の実現 オントロジー工学の成果」 大阪大学 産業科学研究所 知能システム科学研究部門 知能システム研究分野 教授 溝口 理一郎 「レジスト・有機薄膜の極微細加工プロセスにおける加工精度、ナノ空隙、アウトガスなどの問題」 大阪大学 産業科学研究所 量子ビーム科学研究部門 量子ビーム物質科学研究分野 教授 田川 精一 「ファウンドリーの紹介」</p>

	大阪大学 産業科学研究所 ナノテクノロジープロセスファウンダリー 客員助教授 村杉 政一
開催年月日	平成15年7月7日(月) 参加者：104名
テ ー マ	21世紀における分散型エネルギーシステム
演題・講師	「分散型発電とエネルギー利用の現状」 東京大学 大学院 新領域創成科学研究科先端エネルギー工学専攻 教授 山地 憲治 パネル討論会 「21世紀における分散型エネルギーシステムの展望」 司 会：姫路工業大学 学長 鈴木 胖 パネリスト：大阪ガス(株) 技術戦略部長 理事 平野 茂樹 (株)タクマ 機械事業統轄本部機器開発室長 井上 梅夫 三菱重工業(株)原動機事業本部タービン技術部 タービン技術開発課課長 上田 悦紀 関西電力(株)研究開発室技術調査グループ マネージャー 砂田 正和 (株)竹中工務店 設計部 設備課長 古寺 典彦
開催年月日	平成15年10月3日(金) 参加者：140名
テ ー マ	ナノテクノロジーセミナー
演題・講師	講 演 「ナノ領域の構造を‘観る’そして‘明らかにする’」 京都工芸繊維大学 工芸学部 電子情報工学科 教授 遠藤 久満 技術シーズ発表 「細胞機能解析用蛍光修飾RNAプローブの開発」 京都工芸繊維大学 繊維学部 高分子学科 教授 村上 章 「Si-SiC ハイブリッド形ナノサイズ冷陰極の開発」 京都工芸繊維大学 工芸学部 電子情報工学科 教授 西野 茂弘 「規則的ナノ構造を導入した透光性酸化物の光機能性」 京都工芸繊維大学 工芸学部 物質工学科 助教授 田中 勝久 「プラズマCVD法によるカーボンナノチューブの作製と応用」 京都工芸繊維大学 工芸学部 電子情報工学科 助教授 林 康明 「極低温顕微ルミネセンス観測装置 ナノ構造からの発光の高感度検出」 京都工芸繊維大学 工芸学部 電子情報工学科 助教授 吉本 昌広 共同研究事例発表 「無機有機ナノコンポジットエマルジョンの開発」 水谷ペイント(株) 取締役技術本部長 水谷 勉 「『X線による多層構造体の新測定法に関する研究』の成果によるX線スキャ ナーの開発について」 (株)エックスレイプレシジョン 代表取締役兼開発部長 細川 好則
開催年月日	平成15年5月16日(金) 参加者：140名
テ ー マ	プロジェクト化を待つ次世代レーザー加工技術
演題・講師	「低出力小型レーザーによる超微細加工の可能性」 大阪大学 レーザー核融合研究センター 助教授 實野 孝久 「コヒレント社製最先端産業用レーザとその応用例」 コヒレント・ジャパン(株) 山崎 達三

	<p>「フェムト秒レーザーによるレーザーアブレーション微細加工の可能性」 (財)福井県産業支援センター 研究員 田中 隆三</p> <p>「LIPAA (レーザー生成プラズマ支援アブレーション) 加工の特徴と可能性について」 丸文(株) 試験計測部 営業第3課 山岡 裕</p> <p>「電子デバイス製造プロセスにおけるレーザー加工モニタリング技術の実用化」 松下電工(株) 融合技術研究所 田中 健一郎</p> <p>「シングルモードファイバーレーザーによる超高速精密溶接・加工技術」 大阪大学 大学院 工学研究科 教授 宮本 勇</p>	
開催年月日	平成15年5月30日(金)	参加者数：90名
テ - マ	<p>迫り来る炭素税と排出権取引の社会 - 環境と経済のトレードオフの彼方 -</p>	
演題・講師	<p>「京都議定書への対応と京都メカニズムの役割」 (財)地球環境産業技術研究機構 副理事長/研究所長 茅 陽一</p> <p>「欧州における環境税(炭素税)の動向と環境税制構築における課題」 (財)日本エネルギー経済研究所マネジャー 工藤 拓毅</p> <p>「地球温暖化対策の国内制度設計：炭素税 vs 排出権取引」 大阪大学 社会経済研究所 教授 西條 辰義</p> <p>「来るべき炭素制約社会におけるビジネスの視点」 Climate Experts 代表/シニアリサーチフェロー 松尾 直樹</p> <p>パネルディスカッション 「環境目標達成のため望ましいのは炭素税か排出権取引か」 司 会：茅 陽一 パネリスト：工藤 拓毅、西條 辰義、松尾 直樹</p>	
開催年月日	平成15年10月15日(水)	参加者：240人
テ - マ	表面処理技術分野	
演題・講師	<p>「光触媒技術とその応用・製品化」 産業技術総合研究所中部センター 瀬戸サイト セラミックス研究部門 環境材料化学研究グループ グループ長 埜田 博史</p> <p>「超撥水 - 機能発現とメカニズム -」 (財)応用科学研究所第二研究室 室長 鄭 容宝</p> <p>「樹脂フィルムへのコーティングビジネスについて」 尾池工業(株) 技術管理部門長 村上 欣永</p>	
開催年月日	平成15年12月11日(木)	参加者：65名
テ - マ	次世代ロボット技術	
演題・講師	<p>「立命館大学ロボット技術の紹介」 立命館大学 副学長 川村 貞夫</p> <p>「空気圧受動要素を用いた柔軟軽量ロボット」 立命館大学 満田 隆</p> <p>「仮想パワーリミッタシステム～未知のシステムをいかに制御するか～」 立命館大学 金岡 克弥</p> <p>「空間知能化とロボット」 立命館大学 李 周浩</p> <p>「看護介護支援を念頭においた見守りロボットの開発」</p>	

	立命館大学 野方 誠 「バーチャル散策コース」 立命館大学 塩澤 成弘 「福祉ロボットのためのリスク低減機構の提案」 立命館大学 手嶋 教之 「自立支援用/介護支援用パワーアシスト装置、および、超高速ロボット」 立命館大学 永井 清 「視触覚ベースマニピュレーション」 立命館大学 平井 慎一 「ヒューマンテクノロジー研究会・立命館大学 BKC インキュベータの紹介」 立命館大学 牧川 方昭 「経済産業省ロボット関連支援施策のご紹介」 近畿経済産業局 担当者	
開催年月日	平成15年11月28日(金)	参加者：109名
テ - マ	五感技術の今・これから Part 1	
演題・講師	「五感情報技術～新たな技術と産業のパラダイムを求めて～」 東京大学 先端科学技術研究センター 教授 廣瀬 通孝 「エレクトロニックノーズシステムの開発動向と将来展望」 金沢工業大学 高度材料科学研究開発センター 教授 南戸 秀仁 「食に関する知識集約型社会を目指して」 九州大学 大学院 システム情報科学研究院 教授 都甲 潔 「五感産業技術の進化ベクトル」 (株)日本自動車部品総合研究所 専務取締役 (株)デンソー 顧問 原 邦彦	
開催年月日	平成15年12月16日(火)	参加者：201名
テ - マ	次世代ロボット	
演題・講師	「医療ロボットの現状と課題および今後の動向」 九州大学 大学院 医学研究院 教授 橋爪 誠 「レスキューロボット研究開発の現状、今後の方向性、産業化について」 神戸大学 工学部 情報知能工学科 助教授 田所 諭 「レスキューロボット産学官民連携実例」 神戸大学 工学部 情報知能工学科 教授 高森 年 「レスキューロボット TAGUAN」 特定非営利活動法人 国際レスキューシステム研究機構 神戸ラボラトリー特別研究員 武村 史朗 「仮想触感ディスプレイ」 神戸大学 大学院 自然科学研究科 博士後期課程 昆陽 雅司 「レスキューロボット ROQ」 神戸大学 大学院 自然科学研究科 助手 徳田 献一 「平成16年度経済産業省ロボット関連予算について」 近畿経済産業局担当者	
開催年月日	平成16年1月19日(月)	参加者：121名

テ - マ	成果発表会	
演題・講師	<p>「ものづくりクラスター推進プロジェクトについて」 近畿経済産業局 産業振興部 ものづくりクラスター推進室長 森口悦光</p> <p>「光ナノ構造光デバイスの開発」 大阪府立大学 大学院 工学研究科 助教授 菊田 久雄</p> <p>「ナノインプリンティングによる光学素子作製」 大阪府立大学大学院 工学研究科 助教授 平井 義彦</p> <p>「表面無反射構造作製技術の開発」 (財)大阪科学技術センター 研究員 豊田 宏</p> <p>「サブピコ秒現象を計測できる超高速光スペクトログラムスコープ」 大阪大学 大学院 工学研究科 助教授 小西 毅</p>	
開催年月日	平成16年1月30日(金)	参加者：138名
テ - マ	省エネルギーによるCO ₂ 対策 ～環境ビジネスとしてのE S C O事業の課題と期待～	
演題・講師	<p>「省エネ事業のあり方とE S C O事業の課題と期待」 (株)住環境計画研究所 代表取締役社長 中上 英俊</p> <p>「E S C O事業の意義と将来展望」 大阪大学 大学院 情報科学研究科 助教授 朴 炳植</p> <p>「省エネルギー技術の最新動向」 (株)ガスアンドパワー E S C O事業部長 柴藤 悦雄</p> <p>「マイクロタービンの納入事例とエネルギービジネス」 (株)タクマ 機器事業本部 エネルギーソリューション部 部長 古川 昭夫</p> <p>「E S C Oビジネスの最前線」 セントラルリース(株) E S C O推進室 調査役 永野 敏隆</p> <p>「省エネ対策とE S C O事業」 近畿経済産業局 資源エネルギー部 エネルギー対策課長 山本 文人</p> <p>「自治体での取り組み」 大阪府 建築都市部 公共建築室 課長補 佐田邊 陽一</p> <p>パネル討論会</p>	
開催年月日	平成16年2月25日	参加者：140名
テ - マ	技術交流会	

演題・講師	<p>「インプリント技術を用いたナノメートル構造一括転写装置の開発」 明昌機工(株)</p> <p>「光触媒機能を有するアクリル繊維を用いた殺菌機能性空気フィルターの開発」 (株)ソダ工業</p> <p>「超高感度・携帯型大気化学成分測定装置の試作」 紀本電子工業(株)</p> <p>「電子あぶり出し技術を利用した次世代型情報セキュリティ用ソフトウェアのモデル化」 (株)エーエスエー・システムズ</p> <p>「陽電子消滅による非破壊診断装置」 住友金属テクノロジー(株)</p>	
開催年月日	平成16年3月4日(木)	参加者：119人
テーマ	知的財産	
演題・講師	<p>「中小企業の活性化を果たす知的財産権の意義」 日本弁理士会近畿支部 支部長・弁理士 杉本 勝徳</p>	
開催年月日	平成16年3月16日(火)	参加者：30名
テーマ	五感技術の今・これから Part 2	
演題・講師	<p>「感性・感動研究によるニューパラダイムの創造」 九州大学大学院芸術工学研究院 教授 綿貫 茂喜</p> <p>「触覚合成技術の展開」 東京都立科学技術大学大学院 工学研究科 助教授 池井 寧</p> <p>「視覚情報の獲得と安全性」 大阪大学大学院 人間科学研究科 教授 三浦 利章</p> <p>「心は量子で語れるか？」 日本放送協会 番組制作局 チーフ・プロデューサー 佐々木 和郎</p>	
開催年月日	平成16年3月16日(火)	参加者：208名
テーマ	微細加工装置(レーザ加工技術)	
演題・講師	<p>「レーザ加工の基礎 - 各種加工用レーザの特徴と加工への応用 - 」について 大阪大学 大学院 工学研究科 生産科学専攻 教授 宮本 勇</p> <p>「ジョブショップに見るレーザ加工事例」 (株)ファインプロセス 代表取締役社長 坪井 昭彦</p> <p>「松下電工におけるレーザ応用の検討・実用化について」 松下電工(株) 先行・融合技術研究所 先行材料プロセス技術開発グループ 主担当 久保 雅男</p> <p>「産業界における YAG レーザ加工の導入例」 芝浦メカトロニクス(株) さがみ野事業所 レーザシステム部 事業部 長附 岩間 誠司</p>	
開催年月日	平成16年3月26日(金)	参加者：75名